

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
国際メディカル専門学校	平成14年1月9日	渡辺敏彦	〒950-0914 新潟市中央区紫竹山6丁目4番12号 (電話)			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 国際総合学園	昭和32年10月10日	池田 弘	〒951-8065 新潟市中央区東堀通一番町494番地3 (電話) 025-210-8565			
目 的	人間尊重の精神を教育理念の基調とし、看護に必要な知識及び技術を教授し、国内および海外にと広く社会に貢献できる人材を育成する。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医療	医療専門課程	看護学科	3年(昼)	3060時間 (97単位)	有 「平成19年2月22日 日本文部科学省告示 第二十号」	—
教育課程	講義・演習		実験	実習	実技	
	2025時間 (74単位)			1035時間 (23単位)		
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
240人	253人	14人	61人	74人		
学期制度	■前期：4月1日～9月20日 ■後期：9月21日～3月31日			成績評価	■成績表(有・無) ■成績評価の基準・方法について 1科目について100点満点とし、60点以上を合格とする。成績表示は、80点以上をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をC、60点未満をDとし、不合格とする。	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：7月下旬から8月下旬までの4週間 ■冬 季：12月下旬から1月上旬までの2週間 ■学 年 末：3月中旬から4月上旬までの2週間			卒業・進級条件	3年以上在籍し、3060時間(97単位)を修了した者に卒業を認定する。進級条件はなし。	
生徒指導	■クラス担任制(有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 まず、クラス担任や学年リーダーが面談。その理由によっては保護者や学科の長との面談することもある。			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動では、近隣地域への清掃活動、募金活動を行っている ■サークル活動(有・無)	

就職等の状況	■主な就職先、業界等 看護師として就業 新潟県立病院他 ■就職率^{※1} 98.7% ■卒業者に占める就職者の割合^{※2} 96.2% ■その他（任意）進学率 2.8% （平成27年度卒業者にに関する平成28年3月31日時点）	主な資格・ 検定	看護師国家試験受験資格取得
中途退学の現状	■中途退学者 5名 ■中退率 1.9% 平成27年4月1日在学者 253名（平成27年4月入学者を含む） 平成28年3月31日在学者 248名（平成28年3月卒業生を含む） ■中途退学の主な理由 進路変更、一身上の都合 ■中退防止のための取組 個人面談、家族との連携		
ホームページ	URL: http://www.icm-net.jp/		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

教育課程は「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」第4条3項別表3に則り編成し、厚生労働省より認可を受けている。教育課程の実施にあたっては、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野の臨地実習において、本校の実習目的を達成するために、企業等（臨地実習病院や実習施設）と定期的に臨地実習指導者会議を開催し、学習目標・内容を共有し、実習病院や実習施設の状況に合わせた学習環境の整備や指導方法の検討を行っている。

また、看護職能団体である新潟県看護協会特別委員会から1名、学生の実習病院でもあり就業先でもある病院の代表から1名の外部委員を含めた委員会を設置し、教育課程編成の参考とする。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年3月31日現在

名 前	所 属
佐々木美奈子	新潟県看護協会 新潟県立精神医療センター
吉澤 浩子	医療法人真仁会南部郷総合病院 南部郷厚生病院 北日本脳神経外科病院
白倉 政典	国際メディカル専門学校 副校長
佐藤 秀幸	国際メディカル専門学校 教務部長
秋山 啓子	国際メディカル専門学校 看護学科副校長
小林 伸子	国際メディカル専門学校 看護学科学科長
大橋 洋子	国際メディカル専門学校 看護学科実習調整者

(開催日時)

第4回（平成27年度第1回） 平成27年9月25日 15:30～17:00

第5回（平成27年度第2回） 平成28年3月23日 15:30～17:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

厚生労働省「看護教育の内容と方法に関する検討会」報告を受け、卒業時までの実践能力育成のために、専門分野Ⅰ（基礎）、専門分野Ⅱ（成人、老年、母性、小児、精神）、統合分野（在宅、統合）の臨地実習科目について、事前に実習病院・実習施設と実習指導者会議を持ち、指導内容・方法等の検討を行い、実施し、評価を行っている。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
基礎看護学実習Ⅰ	健康上の問題を持つ対象の療養生活の理解、看護場面を通して看護の役割を知る、日常生活援助を通して対象の理解を目的に、1年次の後期45時間（1単位）の臨地実習を行っている。	新潟県立がんセンター新潟病院、新潟中央病院、信楽園病院
基礎看護学実習Ⅱ	対象の健康・生活上の課題を把握し、看護過程を用いて看護が実践できる基礎能力の習得を目的に、2年次の後期90時間（2単位）の臨地実習を行っている。	新潟白根総合病院、信楽園病院、新潟中央病院、新潟脳外科病院、新潟県立がんセンター新潟病院、新潟南病院
成人看護学実習Ⅰ	生体機能の変化や危機に陥る対象と家族に対して生命維持や苦痛の緩和、健康回復に必要な援助ができることを目的に、3年次に90時間（2単位）の臨地実習を行っている。	新潟県立がんセンター新潟病院、新潟県立新発田病院、あがの市民病院、新潟中央病院、新潟大学医歯学総合病院、亀田第一病院、北日本脳外科病院、南部郷総合病院

成人看護学実習Ⅱ	慢性期にあり、自己管理を必要とする対象を理解し、セルフケア確立への援助ができることを目的に、3年次に90時間(2単位)の臨地実習を行っている。	信楽園病院、新潟南病院、南部郷総合病院
成人看護学実習Ⅲ	終末期にある対象及び家族を理解し、その人らしく生を全うできるように身体的・精神的・社会的苦痛の緩和のための援助ができることを目的に、3年次に90時間(2単位)の臨地実習を行っている。	新潟白根総合病院
老年看護学実習Ⅰ	地域や施設で生活する人を対象とし老年者の特徴を理解することを目的に、2年次後期に90時間(2単位)の臨地実習を行っている。	特養ホーム愛宕の園、特養ホームあしぬま荘、老健施設尾山愛広園、老健施設千歳園、老健施設健進館、老健施設みずき苑、老健施設ほほえみの里きど、コミュニティールーム、うちの実家、お茶の間、いこいの間
老年看護学実習Ⅱ	加齢と疾患による健康障害に伴う問題を理解し、個別性を考慮した看護を行うための知識・技術・態度を習得することを目的に、3年次に90時間(2単位)の臨地実習を行っている。	新潟リハビリテーション病院
小児看護学実習	小児各期の特徴と小児を取り巻く家族と環境を理解し、小児の成長・発達、あらゆる健康レベルに応じた保育と看護ができる基礎的能力を習得することを目的に、3年次に90時間(2単位)の臨地実習を行っている。	西新潟中央病院、南部郷総合病院、新潟医療センター病院、聖徳保育園、上木戸保育園、はじめ保育園、スマイルはじめ保育園
母性看護学実習	妊娠、分娩、産褥及び新生児期にあたる対象と家族の特性を理解し、母子およびその家族の必要性に応じた看護を行う基礎的能力を習得することを目的に、3年次に90時間(2単位)の臨地実習を行っている。	三条総合病院、あがの市民病院、亀田第一病院
精神看護学実習	精神に障害を持つ対象を理解し、精神の健康を回復するための看護に必要な知識・技術・態度を習得することを目的に、3年次に90時間(2単位)の臨地実習を行っている。	南浜病院
在宅看護論実習	地域で生活しながら療養する人及びその家族を理解し、保健医療福祉の実態を捉え、他職種と協働する中での看護の役割を果たすために必要な知識・技術・態度を習得できることを目的に、3年次に90時間(2単位)の臨地実習を行っている。	訪問看護ステーションさんじょう、聖籠訪問看護ステーション尾山ナーシングセンター、訪問看護ステーションにいつ、臨港訪問看護ステーション、訪問看護ステーション中条愛広園、すずらん訪問看護ステーション新潟こぼり訪問看護ステーション、訪問看護ステーションたんぽぽ、北日本訪問看護ステーション新潟南訪問看護ステーション、特養ホーム愛宕の園、特養ホームつかのめの里、介護老親保健施設健進館、介護老親保健施設中条愛広苑、介護老親保健施設愛宕の里、介護老親保健施設女池南風苑、新潟市地域包括支援センター、胎内市地域包括支援セン

		ター、五泉市地域包括支援センター、三条市地域包括支援センター
統合実習	看護職としての責任と役割を理解し、看護の対象を総合的に捉えて主体的に看護を実践する能力を身につけることを目的に、3年次に90時間(2単位)の臨地実習を行っている。	信楽園病院、新潟中央病院、新潟白根総合病院
3. 教員の研修等		
(教員の研修等の基本方針) 厚生労働省の「今後の看護教員としてのあり方に関する検討会報告書」を受け、各教員の継続教育の促進と看護実践能力の保持・向上を目指した研修計画を立案し実践している。実践にあたっては本校の就業規則教育規定に基づき別途定める研修規定により行っている。		
4. 学校関係者評価		
(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)		平成28年3月31日現在
名 前	所 属	
野水 宏一	新潟県立坂町病院 事務長	
田村 泰生	医療法人愛広会 人事部長	
仲野 隆一	社会福祉法人愛宕福祉会 人事部長	
池井 淳子	元国際メディカル専門学校看護学科副校長	
佐藤 桜子	国際メディカル専門学校 校友会会長	
(学校関係者評価結果の公表方法) URL: http://www.icm-net.jp/publicinfo.html		
5. 情報提供		
(情報提供の方法) URL: http://www.icm-net.jp/publicinfo.html		

授業科目等の概要

(医療専門課程看護学科) 平成 25 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			論理学	物事を論理的に思考し、客観的なものの見方、考え方、表現力を習得する	1 前	30	1	○		
○			物理学	医療や看護で行う行為としての原理として、また科学的な思考を訓練する一つの方法として物理学的知識を習得する	1 前	30	1	○		
○			化学	生化学と栄養学を学ぶ基礎作りとして、無機化学(無機物の科学的性質、化学反応、一般化学等)と有機化学(有機化合物、芳香族等)を習得する	1 前	30	1	○		
○			情報科学	コンピューターシステムを中心とした情報技術(IT:Information Technology)の基礎理論と応用を学習し、保健・医療・福祉とのかかわりを理解する	1 前	30	1	○		△
○			心理学	人間の心理を理解するための基礎を学習し、医療・看護の場面においての人間理解の展開能力を養う	1 前	30	1	○		
○			人間関係論	人間を人との関係で生き成長する存在として捉え、人間関係を円滑に保つ必要性和方法について理解する	1 後	30	1	○		
○			社会学	社会とは何か、集団とは何か、家族とは何か、またそれらの構造と機能はどのようなものかを学習し、地域と制度とのかかわりを理解する	1 後	30	1	○		
○			教育学	人間の成長過程と教育とのかかわり、および教育とは何か、日本の教育制度のあり方、教育評価の意義について学習する	2 前	30	1	○		

○		倫理学	生命の尊厳、人格尊重の精神に基づいた人間としての考え方、生き方を学習し、倫理に基づいた行動がとれる能力を養う	2後	30	1	○		
○		英語	専門分野の英語文章の読解をめざす。看護学の文献に慣れ親しみ、英語を英語として読み、考える能力を養う	1通	60	2	○		
○		中国語	文法と読本を通して中国語の基本的な聞く、話す、書く、訳す等の能力を身につけ患者の情報を得るための臨床会話を習得する	2前	30	1	○		
○		保健体育	解剖生理学を踏まえ心身のバランスを保ったり、健全な生活を送ることができるように健康の保持増進に必要な動作を実践する	1後	30	1	△		○
○		解剖生理学Ⅰ	人体を構成する各器官・組織の解剖(構造)と生理(機能)を理解する。解剖生理学Ⅰでは、人体の発生と構成、筋・骨格系、神経系、皮膚、感覚器の構造と生理機能について理解する	1前	30	1	○		
○		解剖生理学Ⅱ	人体を構成する各器官・組織の解剖(構造)と生理(機能)を理解する。解剖生理学Ⅱでは呼吸、循環、内分泌・代謝、遺伝、免疫の構造と生理機能について理解する	1前	30	1	○		
○		解剖生理学Ⅲ	人体を構成する各器官・組織の解剖(構造)と生理(機能)を理解する。解剖生理学Ⅲでは消化、吸収、泌尿器、生殖器の構造と生理機能について理解する	1前	30	1	○		
○		栄養学	生化学の知識をもとに身体を作るための栄養と健康を回復するための食事について学ぶ	2前	30	1	○		
○		生化学	生体を維持していくために必要な諸現象(物質代謝、情報伝達等)や化学反応を理解し、病態の把握・評価に応用できる視点を養う	1後	30	1	○		

○			薬理学	薬物の物理・科学的性質を知り、看護活動における薬物投与、管理、観察の基本的知識と姿勢について理解する	1後	30	1	○		
○			微生物学	微生物の特徴を知り、生体に及ぼす影響について理解する。また、病原微生物の感染経路と感染予防について理解する	1前	30	1	○		
○			病理学概論	人体の細胞と組織を正常からみた病的現象の成因・発生機序・経路について、看護活動において起こる病理的機序と関連づけて理解する	1前	15	1	○		
○			病態学Ⅰ	呼吸器系に疾患を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する	1後	15	1	○		
○			病態学Ⅱ	循環器、血液リンパ系に疾患を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する	1後	30	1	○		
○			病態学Ⅲ	消化器系、内分泌、栄養代謝の疾患、膠原病の患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する	1後	30	1	○		
○			病態学Ⅳ	脳神経系に疾患を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する	1後	15	1	○		
○			病態学Ⅴ	腎泌尿器系、女性生殖器系、感覚器系に疾患を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する	1後	30	1	○		
○			病態学Ⅵ	運動器系に疾患を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する	1後	15	1	○		
○			病態学Ⅶ	感覚器系に疾患を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する	1後	30	1	○		
○			現代医療論	医学の発達、医療の体系と機能を学び、医療が担っている社会的役割を理解する。現代医療における問題について理解する	2後	30	1	○		

○		公衆衛生学	公衆衛生活動の実際を理解する。公衆衛生に関する統計情報を理解する	2後	30	2	○		
○		社会福祉	社会福祉の理念と歴史を学び、現状を知り社会資源の活用の仕方を理解する。福祉と医療の連携の必要性を理解する	1後	30	2	○		
○		関係法規	保健医療、福祉など看護をとりまいている関係法規を学ぶことにより、看護するうえで役立てるとともに、法律で規定されている看護師の業務や責任について理解を深める	2後	30	1	○		
○		基礎看護学概論	「看護とは何か」を考え、人間・健康・環境と看護のかかわりを学ぶ。 看護の役割と機能の概要を理解する。 主要な看護理論家の看護概念を学ぶ。	1前	30	1	○		
○		看護基本技術Ⅰ	看護実践の基盤となるコミュニケーションの基本的な方法を理解し、効果的な対応を学ぶ。 感染防止の基本であるスタンダードプリコーションを理解する。	1前	30	1	○	△	
○		看護基本技術Ⅱ	健康状態を把握するために必要なフィジカルアセスメントの知識と観察技術について学ぶ。 看護におけるフィジカルアセスメントの基礎的能力を養う。	1後	30	1	○	△	
○		生活援助技術Ⅰ	対象を取り巻く環境を整え、安全で快適な病床環境を提供できる技術を学ぶ。 活動・休息・睡眠の意義を理解し、対象のセルフケア能力に応じた援助方法を学ぶ。	1前	30	1	○	△	
○		生活援助技術Ⅱ	健康な生活における食事・栄養の意義を理解し、対象に応じた食事援助技術を学ぶ。 健康な生活における排泄の意義を理解し、対象に応じた排泄援助技術を学ぶ。	1前	30	1	○	△	

○			生活援助技術Ⅲ	人間にとっての衣生活の重要性を理解し、衣生活に関するアセスメントと援助方法を学ぶ。 人間にとっての清潔の意義を理解し、身体の清潔に関するアセスメントと援助方法を学ぶ。	1前	30	1	○	△	
○			診療の補助技術Ⅰ	与薬や輸血の意義を理解し、正しい基本的技術を身につける。	2前	30	1	○	△	
○			診療の補助技術Ⅱ	診療、治療、検査が安全・安楽に行なえるための知識・技術を学ぶ。 創傷管理の基本的技術を学ぶ。 医療機器の基本的な取り扱いがわかる。	2後	30	1	○	△	
○			看護過程	看護過程の基礎を学習し、看護過程の意義を理解する。 看護理論を用いて系統的・科学的・意図的な思考過程を学ぶ。	1後	30	1	○	△	
○			臨床看護総論	健康障害に共通する経過別看護の特徴が理解できる。 主要な症状の特徴と治療・看護が理解できる。 救急救命処置を理解し、実践できる。	1後	30	1	○	△	
○			基礎看護学実習Ⅰ	患者の生活環境および看護活動の実際を知り日常生活援助を通して患者を理解する	1後	45	1			○
○			基礎看護学実習Ⅱ	看護過程を用いて日常生活援助を実践できる基礎能力を身につける。	2後	90	2			○
○			成人看護学概論	成人期にある人の特徴と成人保健の動向を理解し、健康な生活を保持・増進するために必要な看護の役割を学ぶ。	1後	30	1	○		
○			成人看護学方法論Ⅰ	手術を受ける対象や家族にどのような影響や変化が起こるかを考え、周手術期看護の基本について学ぶ。 循環器・呼吸器に障害をもつ対象及び家族への看護の方法を学ぶ。	2前	30	1	○		

○		成人看護学 方法論Ⅱ	運動機能・脳神経系・生殖機能に障害をもつ対象及びその家族への看護方法を学ぶ。	2後	30	1	○		
○		成人看護学 方法論Ⅲ	栄養摂取、代謝機能に障害をもつ対象及び家族への看護の方法を学ぶ。 内部環境調節機能に障害をもつ患者及び家族への看護の方法を学ぶ。	2後	30	1	○	△	
○		成人看護学 方法論Ⅳ	がんの治療や療養に伴う、対象と家族への影響、看護の役割を学ぶ。 身体防御機能に障害をもつ対象への看護の方法を学ぶ。 人生の最期の時を過ごす対象への看護の方法を学ぶ。	2後	30	1	○	△	
○		成人看護学 方法論Ⅴ	栄養摂取・吸収障害をもつ対象の看護の方法を学ぶ。 成人期にある対象の事例を通して、看護過程の展開ができる。	2前	30	1	△	○	
○		老年看護学 概論	老年期にある人の特徴と保健・医療・福祉の動向を知り、看護の役割を理解する	1後	30	1	○		
○		老年看護学 方法論Ⅰ	高齢者に特有な健康障害を知り、老年看護の機能と役割について知る。	2前	45	2	○	△	
○		老年看護学 方法論Ⅱ	高齢者に特有な主要症状と老年看護に必要な基本的援助技術を理解する。	2後	30	1	○	△	
○		小児看護学 概論	成長・発達過程にある子どもと家族の特徴、及び変動する社会を踏まえての小児看護の役割について理解を深める。	1後	30	1	○		
○		小児看護学 方法論Ⅰ	健康障害をもつ子どもとその家族に対する看護を学ぶ。	2前	45	2	○	△	
○		小児看護学 方法論Ⅱ	小児看護を展開する上で必要な基本となる看護技術を学ぶ。	2後	30	1	△	○	
○		母性看護学 概論	母性の意義と特徴及び母性看護の機能と役割について総合的に理解する。	2前	30	1	○		

○			母性看護学 方法論Ⅰ	母性の営みが著名な妊娠・分娩・産褥にある母性と胎児及び新生児を対象とした、身体的・心理的・社会的側面の影響について理解し、母性の健全な発達や母子の安全な看護のあり方を理解する。	2前	45	2	○		
○			母性看護学 方法論Ⅱ	既習した各期の対象と看護に関する知識を統合して、妊娠・分娩・産褥及び新生児に必要な基本的な援助技術を理解する。	2後	30	1	○	△	
○			精神看護学 概論	心の健康・精神活動のとりえ方について理解を深める。	1後	30	1	○		
○			精神看護学 方法論Ⅰ	精神発達と健康障害について学ぶ。また、主な診療と看護について学ぶ。	2前	30	1	○		
○			精神看護学 方法論Ⅱ	精神の健康に障害をもつ人の看護援助の展開に必要な知識と技術について学習する。	2前	45	2	○	△	
○			成人看護学 実習Ⅰ	生体機能の変化や危機に陥る対象と家族に対し、生命維持や苦痛の緩和、健康回復に必要な援助ができる	3通	90	2			○
○			成人看護学 実習Ⅱ	慢性期にあり、自己管理を必要とする対象を理解し、セルフケア確立への援助ができる。	3通	90	2			○
○			成人看護学 実習Ⅲ	終末期にある対象および家族を理解し、その人らしく生を全うできるように身体的・精神的・社会的苦痛の緩和のための援助ができる。	3通	90	2			○
○			老年看護学 実習Ⅰ	老年期にある対象の特徴および発達課題を理解し、加齢と疾患による健康障害の程度に応じた看護を行うための知識・技術・態度を習得する。	2後	90	2			○
○			老年看護学 実習Ⅱ	加齢と疾患による健康障害に伴う問題を理解し、個性を考慮した看護を行うための知識・技術・態度を習得する。	3通	90	2			○

○			小児看護学 実習	小児各期の特徴と小児を取り巻く家族と環境を理解し、小児の成長・発達、あらゆる健康レベルに応じた看護ができる基礎的能力を養う。	3通	90	2			○
○			母性看護学 実習	妊娠、分娩、産褥及び新生児期にある対象と家族の特性を理解し、母子及びその家族の必要性に応じた看護を行う基礎的能力を養う。	3通	90	2			○
○			精神看護学 実習	精神に障がいを持つ対象を理解し、精神の健康を回復するための看護に必要な知識・技術・態度を習得する。	3通	90	2			○
○			在宅看護論 概論	在宅看護の概念を踏まえ、在宅看護の対象と看護師の役割が理解できる。	2前	30	1	○		
○			在宅看護論 方法論Ⅰ	地域で生活しながら療養する人及びその家族に必要な在宅看護の展開方法を理解する。	2前	30	1	○		
○			在宅看護論 方法論Ⅱ	地域で生活しながら療養する人及びその家族に必要な在宅看護技術を理解する。	2後	45	2	○	△	
○			臨床看護の 実践	示事例のうちの一事例についての看護過程の展開(計画立案まで)をする・看護計画に沿って、必要な生活援助技術・診断治療に伴う技術項目を抽出することができる・生活援助技術、診断治療に伴う技術を実践できる・看護実践能力を評価して、自己の課題を明確にできる・看護に活用できる知識・技術についての学習方法がわかる	2後	30	1	△	○	
○			看護管理	看護関連法規等から看護師の役割を学び、より良い看護を提供するために看護管理の必要性と重要性を理解する。 ・災害看護を中心に危機管理を理解し、看護の役割と実践活動を学ぶ。 ・世界の人々の健康問題及び疾病発生・死亡状況など様々な現状と要因を学び、国際保健・国際看護に役立つ情報と	2前	30	1	○		

				知識を習得する。						
○			医療安全	医療安全に対する基本的知識と姿勢を学び、リスク感性を養う。事故の視点から看護業務を理解し、臨床現場に即した実践能力を養う。	3後	30	1	○	△	
○			卒業研究	研究論文を読むための基礎的知識を習得する。 看護研究過程の概要を理解し、実習で実施した看護過程の1事例について疑問や興味・関心をもった内容を科学的、系統的に探究して、論文としてまとめる。 学会参加の体験から看護師として必要な基礎的能力を身につける。	3前	30	1	△	○	
○			在宅看護論 実習	地域で生活しながら療養する人及びその家族を理解し、保健福祉医療の実態をとらえ、他職種と協働する中での看護の役割を果たすために必要な知識・技術・態度が習得できる。	3通	90	2			○
○			統合実習	看護職としての責任と役割を理解し、看護の対象を総合的に捉えて主体的に看護を実践する能力を身につける。	3後	90	2			○
合計		78 科目			3060 単位時間(97 単位)					